

## 地域包括ケア専門職“絆”研修第 10 回 ②在宅療養中「生活支援」

〈日 時〉 令和 7 年 10 月 26 日(日)



### 8, スタッフの振り返り

#### 1. グループワークの司会について

- ・経験値が高そうなメンバーだったため、迷いなくメンバーで決めてもらった。司会者も全員に意見を確認され、困ることはなかった。(西尾)
- ・GW1の司会と発表は強引に決めた。GW2は休憩時間に根回しを行い、平和的に決めた。(宮崎)
- ・2つのグループワークともに、参加者からの手上げで決定した。グループワーク②は、自然とグループワーク①の司会と発表をしていない方が担う雰囲気になった。グループワーク自体は、発言が偏ることなく、参加者全員が発言されていたと思う。グループワークのマナーは説明しなかったが、マナーに反することもなく、それぞれの意見を尊重されていたと思う。(植垣)
- ・グループワーク①の時に①と②の司会と発表を参加者に話し合っ決めてもらった。4人グループだったので皆に役割があり、そこまで時間がかからずに決まった。(平井)
- ・ワーク①は、まだまだ温まっていなかったためファシリテーターが行なった。ワーク①の様子を見てグループの雰囲氣的に司会をお任せしても問題ないと判断したため、ワーク②は参加者さんの中で決めていただいた。(中嶋)
- ・司会と発表をそれぞれ 2 名ずつ立候補してほしい旨を伝えた結果。あまり時間をかけずにそれぞれ自主的に立候補していただけた。(青木)
- ・司会について、参加者またはファシリがする、どちらか自由選択でメンバーの雰囲気を見ながら決められることが出来てよかったと思う。今後、絆研修がこれからの地域福祉活動の担い手の育成に繋

がっている側面を考えると、司会や発表する機会を通じて、普段の業務において、カンファレンスや担当者会議で合意形成を図ったり、意見を引き出す力を養うという意味では、絆研修の場で司会や発表の機会を通して、そのような力を付けていく事も大切な役割のようにも思う。(長谷川)

・参加者の意向確認後、看護職の方が快く引き受けてくださった。介護支援専門員もメンバーにいたが、いつも司会をさせられるとのことで、司会の役割は外れていただいた。(松本)

## 2. 良くてきたと思うこと、このままやっていこうと思うこと

### **【ファシリテーター】**

・メンバーの思いを引き出せたこと。(西尾)

・明るく楽しい雰囲気を作り出すようにしてみた。結果は参加者のみぞ知る。

(ファシリをする以上はこれだけは続けて行こうと思います。)(宮崎)

・発言者が偏っていないか、全体をみるよう意識し、時間管理を意識した。また時間内に目的とする意見交換ができるよう、進行状況を意識した。発言者の意見を尊重しながら、意見の背景にある価値観を引き出すような声かけを意識した。(植垣)

・4人と少人数だったので、少し近いポジションで時々、相槌などを入れながら参加した。話し合いが止まったり、話題がそれそうになった時に介入して時間を有効に使うことを意識した。(平井)

・円滑にグループの議論が進行する手助けができたと思う。(中嶋)

・グループワークでは参加者全員が 討論に参加し、皆さんが均等に発言され色々な意見、体験を話してくださった。(青木)

・付箋や模造紙の活用について、事前にファシリに伝達していただいていたおかげで、活用に戸惑いがなかった。また、グループワークをする時間については、討論のしやすさを考えても丁度良かったと思う。席配置については、問題なかった。一つのテーブルに2人掛けが丁度良かったと思う。(長谷川)

・参加者がそれぞれの職種の目線で意見が言えていたと感じた。グループワークで硬くならないよう、場の雰囲気を作っていこうと思う。(松本)

### **【プレゼンター】**

・短縮した部分もワークシートを参考にいただければ内容が伝わっていたようで、時間内におさめられた。また、グループワークで発表していただいた内容をフィードバックできた。自分の担当部分のプレゼンを練習する際、なかなかうまくいかなかったため、他のプレゼンの方からアドバイスいただき、全体の流れを再確認してから練習するとさらに内容を深められ、プレゼンに臨む事ができた。次回プレゼンに臨む際もそのように取り組んでいこうと思う。(三橋)

・事前準備初めから最後までプレゼンする機会があったことで、スライド説明内容の調整・本番の時間管理など行いやすかった。2040年の社会状況、地域共生社会、本人の選択の重要性などメッセージ性を持ったプレゼンができた。(曾田)

・プレゼンターとして伝えたいことがしっかりと伝わっていたようだった。準備は大変なところがあったが、本番は楽しめた。(近藤高)

### 【事務局】

- ・会場が静かだったのは、テーブルを2つに減らした効果では？(橋本)
- ・机が2台だった為、模造紙が使いやすかった。(今回は模造紙が遠くなり、模造紙を動かしながら付箋を貼った。)(田中)
- ・付箋に太マジックで記入しているグループがあったが、とても見やすかった。(矢部)
- ・当日欠席の方からの連絡がなかったが、空気を見て受講生間で連携して下さり、時間通りに研修が始められたため助かった。必要に応じて同事業所の方に聞くなどしても良いと感じた。(國本)

## 3. 今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

### 【ファシリテーター】

- ・グループワークの始めに、着地点を再確認する。(西尾)
- ・要所での寺岡先生の発言で、GWに広がりができた。知識もさることながら、発言のタイミング等も勉強になった。(宮崎)
- ・グループワーク進行者との調整がむずかしく感じた。進行される方の思いもあるため、どのタイミングで介入してよいか迷う部分があった。沈黙になると焦りがちになる。誘導せず、意見を待つこと価値を引き出すことを意識したい。(植垣)
- ・介入しすぎず、適度に効果的にファシリができるように経験が必要。(平井)
- ・今回は、ワーク②のやり方が変更になったこともあり若干バタついてしまった。今一度、ファシリテーターもしっかり全体の流れを頭に入れ、物品の使い方などに戸惑わないようにしたい。(中嶋)
- ・一部の参加者の方が、議題の趣旨と異なる内容の事を書いておられ、私も気が付いていたが、上手に指摘することが出来なかった。(青木)
- ・ファシリテーターとして少々口をはさみすぎたかなと感じる部分はあったが、スムーズなグループワークの振興のために必要であったとも感じている。(松本)

### 【プレゼンター】

- ・話す合間の間の取り方、自宅で練習していた時よりも時間が早く終わってしまったので、無意識的に急いでしまっていたのかと思う。せっかくの使える時間がもったいなかった。(近藤高)
- ・当日なってから櫻井先生からバトンタッチする際の立ち位置(待機場所)はどのようにしたらよいか、グループワークに入ってしまったから司会や発表者を決める時間をどこで取るのか等流れをイメージしたプレゼン準備ができていなかった点を改善していきたい。(三橋)
- ・土壇場になってから詰め込んで練習する事になってしまい、自分自身余裕を持って取り組むことができなかったため、皆様にとっても一番心配なプレゼン担当だったと思う。サービス担当者会議と一緒に、余裕を持って準備する努力が必要だと思った。(三橋)
- ・情報量の多いスライドを切り替える際には注意が必要。アイスブレイク前の会場雰囲気は予想より硬く、自分自身の緊張感が全体的に伝わった可能性があるため、次回は今回の経験を活かして雰囲気にのまれないように振舞えたらと考えている。(曾田)

## 【事務局】

- ・ヘッドマイクを活用してほしいですが…。(橋本)
- ・毎回、参加者の名前や所属を間違えているため、チェックを怠らないようにしたい。教えてくださる方については、当日修正をしているが、そうではない方は2回、3回と同じ間違いをしている可能性もある。(國本)

## 4. 研修参加者にとってよかったと感じたこと

- ・次も参加したいと言っていたこと。(西尾)
- ・普段の仕事や会話が実はACPに繋がっているんだと実感を持ってもらう事が出来たのではないかなと思う。また、専門性を問うような内容のグループワークではなかったのが、現場経験の有無があまり影響なく話し合いが出来たのではないかなと思う。個人としては、緊張感なく和やかな雰囲気のまま最後まで終わることが出来たと感じる。(近藤高)
- ・参加者のレベルが年々上がっている印象が強い。10年前の初学者とは大違いで。(橋本)
- ・ファシリの方が深掘してくださりグループワークが盛り上がった。各グループの発表後はプレゼンターのフィードバックがあり自分自身の理解が深まった。(田中)
- ・サービス担当者会議に参加された事の無い方も積極的にグループワークで意見を述べてくださっているように見受けられた。全体的に和やかで活発なグループワークができており、楽しみながら学ぶ事ができていたように感じた。(三橋)
- ・プレゼンター、ファシリ共に目的を持った関わり方をする場面が増加したことで、今まで以上に充実したグループワーク・全体情報共有・スライドの説明になっていたと思う。グループワーク中に前のめりになったり、立って話し合いをする姿がとても印象的だった。(曾田)
- ・安心して発言できる雰囲気があった。新しい付箋に価値観を書くという方法は良かった。3人のプレゼンターさんが発表者の発言の後にフィードバックされていたのもとても良かった。(植垣)
- ・ACPについてあまり考えることがなかった参加者の方もおられたので、あらためてよく考えることができたとおっしゃっていた。(平井)
- ・プレゼンター3人ともが準備を重ねてこられて本番が一番良かったと思う。役割分担や時間配分も間延びせず、研修を受けられているメンバーの集中力も最期まで切れていなかったと思う。(長谷川)
- ・グループの皆さんの、自分とは違う観点からの多種多様な意見を聞き、学びの多い時間となった。自分自身が経験もなく、また専門的な研修だが、貴重な機会だった。大人しいグループで、途中静まり返ることがあったが、ファシリの高橋さんが隙を見て皆に話を振ったり、間を埋めたりしてくださっていたのは、さすがだなと思った。(矢部)
- ・自分自身や家族について「もしもの心構え」について考えるきっかけになったこと。グループで共有することによって、立場や職種の異なる方の経験や意見を聞くことができた。(川上)
- ・バランスよく職種が配置されていたこともあり、活発かつ様々な意見が出てきたので、それぞれいつもとは違う視点のものを持って帰っていただけたのではないかなと思う。(中嶋)
- ・参加者の方々が、それぞれの職種の立場で専門的な意見を話され、聞いていて学びになったと思う。(青木)
- ・職種がかぶっていなく、皆がそれぞれの立場で意見が言えていたと感じた。(松本)

## **5. 研修参加者にとって良くなかったと感じたこと**

- ・テンポが速くて、発表内容に手元の資料が追いついていなかったところもあったかもしれない。グループワーク②での付箋の使い方が伝わっていなかったかもしれない。考えの深いところを発信してもらうには、方法よりもファシリテーターの方々の促しの方が良いか？(近藤高)
- ・名刺交換など終了後などにあえて案内してもよかった。(橋本)
- ・スライドの資料、スタッフの介入方法など、QOL に関する話題が引き出せる内容になっていた方がより研修が充実したと考えている。(曾田)
- ・グループワーク時にスタッフが会場を回ることに関して、参加者の注意をそらす可能性がありそう。次回からは、ブラッシュアップチームを紹介する際に、「グループワーク中に会場を回っているので、分からないことがあれば相談してください。」等、事前にブラッシュアップチームも会場で動くことを伝えることも必要と考えている。(曾田)
- ・個人的にはあまり感じなかったが、ACP をすでに実践されている方もいれば、仕事に関わるが自分の事になるとなかなか腰が重いと言われる方もおられ、その理由も様々だと感じた。(青木)

## **6. 研修までの準備に関しての感想**

- ・いつもながら綿密な打ち合わせがあつての本番の成功だと感じる。プレゼン内容も多々助言をもらい、皆さんのおかげでより良い内容に仕上がったと感じる。ありがとうございました。(近藤高)
- ・事前打ち合わせ3回目(プレゼン練習のみ)の参加者のルールを決めたい。全員参加の必要はないと思う。(橋本)
- ・プレゼンターの方が本番に併せて完璧にしてこれていたのですすがだと思った。ありがとうございました。(田中)
- ・打ち合わせの際、不十分なプレゼンに関してもプラスのご意見やアドバイスを下さり、本当にありがとうございました。皆様のおかげで何とか形にすることができました。「みんなで作っていく絆研修なんだ」と実感しました。(三橋)
- ・事前準備回数を重ねるごとに充実していると思う。ブラッシュアップチームで目的などを明確にしていくことで、更に事前準備は充実していくと思う。(曾田)
- ・いつも準備万端、安心して研修に向かえます。(宮崎)
- ・3 回の打ち合わせで、目的や内容、ワークの進め方等を共有できて良かったです。準備が大切だと思うので、今後も今回のような打合せをしていただけますと心強い。(植垣)
- ・いつも準備をありがとうございます。(中嶋)
- ・準備段階で皆さんの意見がもう少し活発に出るようになってほしいと思う。事務局職員の皆様の下準備があつてこそこの絆研修だと思っている。ありがとうございます。(平井)
- ・発表者の方々が忙しい中練習を重ねられ、趣旨に合わせながらも自分の考えや体験を工夫し、プレゼンに盛り込んでおられる姿に感動した。(青木)
- ・打ち合わせの時にもっと皆さんの声が聞けるような進行が必要だと感じた。特にプレゼンの練習の際はもっとフィードバックをしながら、当日に向けて盛り上げていきたい。(國本)

## 7. 全体的な感想・意見

- ・アイスブレイク、スタッフ紹介は研修の始まりにしてどうか。「準備8割・実行2割」この研修に参加するたびに本当にそうだなと感じる。丁寧な準備、プレゼンのフィードバック、ファシリテーションガイド、とても参考になる。(西尾)
- ・初のプレゼンターで会場全体を俯瞰的に見ることができた。グループワークの時のファシリテーターさんの存在の有難みを改めて感じた。次回ファシリテーターで参加する時も頑張ります。(近藤高)
- ・急患診療所の駐車場が混雑していなくてよかった。(橋本)
- ・ブラッシュアップチームが、役割なくじっくり俯瞰していたのが GOOD。(橋本)
- ・参加されているのが研修に対して熱意がある方ばかりなので、グループワークが活発な意見交換が行われ、とても勉強になります。(田中)
- ・私も介護が必要な家族があり、自分事として研修参加の方のご意見を伺いながら自分の親の事等考えていた。正直、ケアマネをしながらACPについて話をしているケースはまだまだ少ないな—とも思った。少しずつでも自分から発信していく必要があると反省し、今後の業務等に活かしていこうと思った。皆様のおかげで、モチベーションアップにもつながった！ありがとうございます。たくさんの方に今後も研修参加していただきたい！！(三橋)
- ・スライド資料に関して、本人・家族・友人など地域住民などの考え・思いなど情報を充実させることで、より裕次郎さんらしい話題がでるグループワークになったかなと思う。(曾田)
- ・プレゼン、ファシリ共に本人・家族などの強みの部分を引き出す声掛けを意図的に増やす必要性がありそう。(曾田)
- ・看取りに関するプレゼンは、看取りに現場で関わっている方が行う方向がいいと思います。近藤さんが語られていたエピソードは参加者にとって貴重だと思う。(曾田)
- ・最後のプレゼンター近藤さんの事例をスライドに盛り込むことができれば、参加者にとって、より分かりやすくなるのではと思った。(宮崎)
- ・グループの雰囲気次第にほぐれて、活発に意見交換されていく様子が見えて、ファシリとしても嬉しかった。ファシリテーターが各グループにいる意味や役割を参加者全体に周知、共有すると良いかも。参加者全体に多職種連携の重要性や価値観を大事にすること、ACP も知っている関係者が増えてきたように感じる。研修内容を変更してもよい時期かもしれません。何回参加しても学びはあるが、初めて参加される方と何回か参加されている方との差も大きいかもしれないなと思った。他のグループででた意見を知りたいと思った。模造紙を最後に壁やホワイトボードに貼ってみてはどうか。スタッフ全体の一致団結感があって、とても心強く思った。とうぶざいたくの皆様の工夫や配慮がとても細やかだった。本当にありがとうございました。(植垣)
- ・(①の担当者会議デモに比べて)参加者の知識や経験によらず、グループワークに参加しやすく発言しやすいテーマだと思った。経験の有無や職種に関わらず、1人1人が積極的に参加されていたので、楽しくグループワークができた。立場や職種の異なる方意見を聞くことで、議論が深まっていく有意義な時間だった。(川上)
- ・お疲れ様でした。研修とても楽しかったです。
- ・声が小さい方がいて聞こえにくかった。机も一つ減らしたので、これ以上は無理なのかなと思う。

が、前回よりは良かった。(矢部)

・9 時になり、受付をボタンタッチし参加者として席についたが、欠席の方から着信があっても研修に入っていたため気づけず、申し訳なかった。今後、今回と同じ流れがあれば注意したいと思う。(矢部)

・今回はプレゼンターの皆さんがベテランの方ばかりで、流れるようにあっという間に終わった研修会だった。いつかは自分もあのレベルに達したい(笑)。ただ、喜ばしいことだと思いますが、東部全体の在宅意識というか、レベルが上がってきているというのか、もう少し踏み込んだ内容に Ver.アップも必要かなと感じた。どんどんと在宅の連携レベルが上がっていったなかで薬剤師がやや遅れている(まだまだカヤの外)感があるため、その辺は我々薬剤師会の課題だとも感じた。(中嶋)

・じぶんにもって何度目かの参加だったが、毎回参加者の方々の個性が異なり、一度として同じワーク、討論にならず、毎回緊張しながらも少し視野が広がったと嬉しく思っている。(青木)

・事例について、シリーズでやっている事例で、映像付きで事例の内容が理解しやすい構成になっているが、2040 年に向けた課題を考えるという意味では、8050問題や障害、児童と絡めた重層的な支援が必要な課題、身寄りがない人の支援などの事例を取り上げてもよいかなと思った。(長谷川)

・介護支援専門員更新研修中に東部では、多職種での研修の場として絆研修が開催されているという意見が出ていた。喜ばしいことだと思った。(松本)